

肥満・メタボリックシンドローム関連抗体  
**抗 ヒト AdipoR1 ポリクローナル抗体**

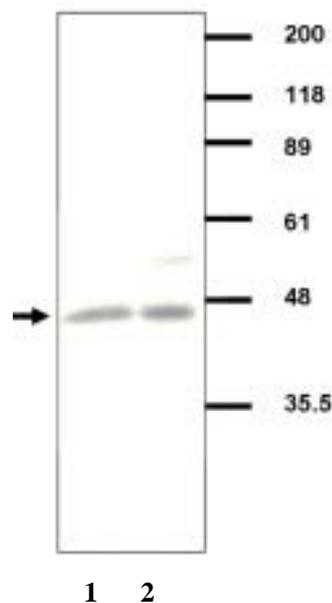
生活習慣病・糖尿病の原因のひとつは肥満であり、脂肪細胞から分泌されるアディポサイトカインはインスリン抵抗性惹起性の悪玉アディポサイトカインと考えられていました。しかし、最近インスリン感受性増強作用を有する善玉アディポサイトカインの存在が明らかになり、その働きが注目されています。

代表的な善玉アディポサイトカインであるアディポネクチン(Adiponectin)は、抗糖尿病・抗動脈硬化作用において重要な役割を担っています。

その受容体として2つのサブタイプ、AdipoR1, AdipoR2が存在し、それらは7回膜貫通型ながらG蛋白質共役型ファミリーとは構造的・機能的に異なるファミリーに属すると考えられています(参考文献1)。AdipoR1は骨格筋に、AdipoR2は肝臓に、強く発現しており、AMPキナーゼ・PPAR $\alpha$ などの情報伝達を介することによって脂肪酸燃焼や糖取り込み促進作用を媒介します。

PPAR $\gamma$ 活性化薬が活性型アディポネクチンを、またPPAR $\alpha$ 活性化薬がアディポネクチン受容体を増加させることが報告されており(参考文献2)、PPAR作動薬の研究分野でも注目を集める受容体です。

|       |   |
|-------|---|
| 容量    | 100 $\mu$ g (400 $\mu$ L/vial)  |
| 形状    | ウサギポリクローナル抗体 0.25mg/mL、凍結品  |
| バッファー | PBS [2%ブロッカー(安定化蛋白)、0.1%proclin 含有]   |
| 保管方法  | -20 以下<br>抗体を低濃度にて冷蔵保管されますと、失活する恐れがあります。<br>融解後は4 で保存し、お早めにご使用下さい。また凍結融解を繰り返すことは避けて下さい。 |
| 製造方法  | ヒト AdipoR1 の N 末端側部分ペプチドを免疫したウサギの抗血清より、<br>ペプチドアフィニティカラムにて精製                            |
| 使用濃度  | ウェスタンブロットティング: 1.0 $\mu$ g/ml   |



ウェスタンブロットティング

Sample:

- 1 マウス筋肉抽出タンパク
- 2 マウス心臓抽出タンパク

肥満・メタボリックシンドローム関連抗体  
**抗 ヒト AdipoR1 ポリクローナル抗体**

【参考文献】

- 1 Yamauchi T. et al.:  
Cloning of adiponectin receptors that mediate antidiabetic metabolic effects.  
Nature. 2003 Jun 12;423(6941):762-9.
- 2 Tsuchida A. et al. :  
Insulin/Foxo1 pathway regulates expression levels of adiponectin receptors and adiponectin sensitivity.  
J Biol Chem. 2004 Jul 16;279(29):30817-22.

製造元

 株式会社トランスジェニック

〒650-0047 兵庫県神戸市中央区港島南町 7-1-14

TEL: 078-306-0295 FAX:078-306-0296

URL:<http://www.transgenic.co.jp> [techstaff@transgenic.co.jp](mailto:techstaff@transgenic.co.jp)